

(始皇郡加治木町日木山)

位置と環境

鹿児島湾奥にある平野部の、標高10～15mの微高地上に位置する。

調査の経緯

隼人道路建設に伴い、平成3（1991）年度から翌年度にかけ、県教育委員会によって発掘調査が実施された。

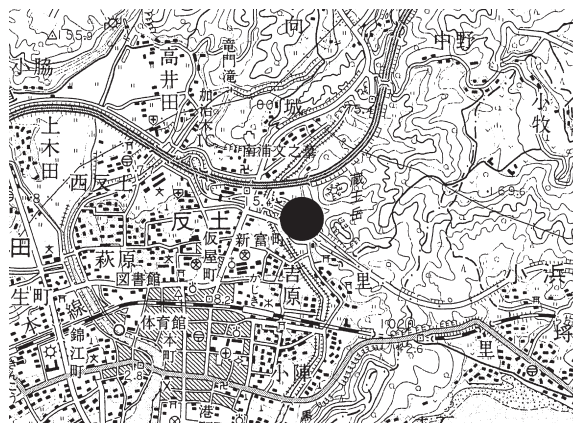
遺構と遺物

縄文時代前期から近世まで多くの遺構・遺物が発見された複合遺跡である。なかでも縄文時代後期の資料が圧倒的な量で発見された。

縄文時代前期は砂層中から曾畑式土器や深浦式土器が出土した。

縄文時代後期は竪穴住居跡10軒・土坑143基・集石遺構6基・集積遺構4基・埋設土器10基等のほか、多数の柱穴状ピットや自然流路等が検出された。

竪穴住居跡の平面形は円形あるいは楕円形で、径



第1図 干迫遺跡の位置

3～4mの規模のものを中心とする。多くは中央に炉跡と考えられる土坑があり、その周囲に柱穴状の小ピットが数本めぐるというタイプのものであった。これらは市来式や丸尾式土器、西平式土器期のものと考えられる。

数多く検出された土坑は、さまざまな形態のものがあるが、その機能については不明瞭であった。

6基の集石遺構のうち、1～5号は自然流路内から検出された。流路がある程度埋まった段階で設け



写真1 蔵王岳と調査現場



写真3 1号竪穴住居跡



写真2 発掘調査風景



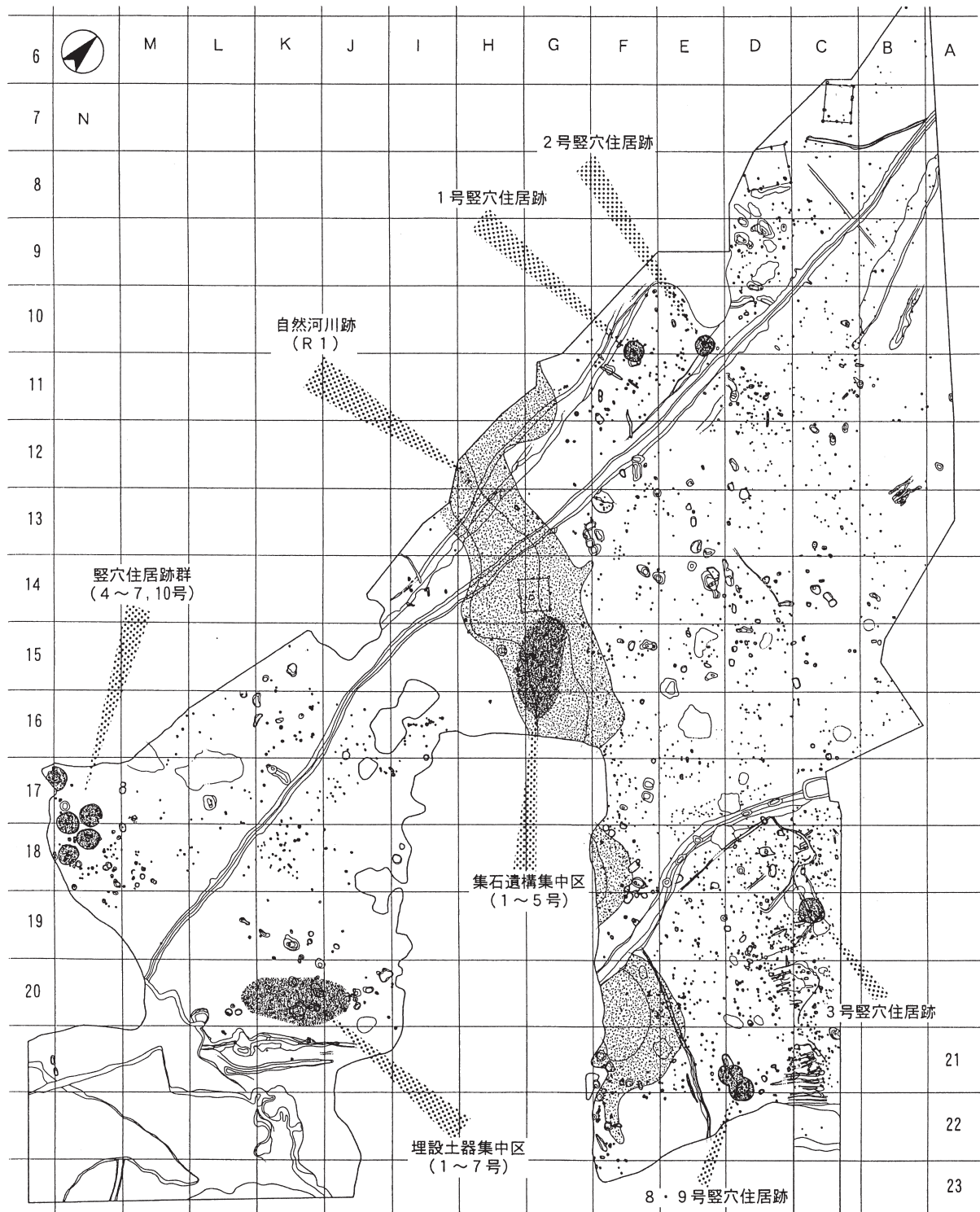
写真4 竪穴住居跡群

られたものと考えられる。集積遺構としたものは4基あったが、石皿状の扁平礫を用いている1～3号に対し、4号は超小型の円礫を39個集めた特殊な遺構であった。

埋設土器は10基検出された。すべて西平式系の土

器と考えられるもので、正位に置かれていた。特に1～7号の埋設土器は、集中して検出されており注目される。

幅約15mの自然流路跡は、ほぼ東西に流れ、長さ約100mにわたり、緩やかに蛇行するような状態で



第2図 縄文時代の遺構配置図（1グリッドは10×10m）

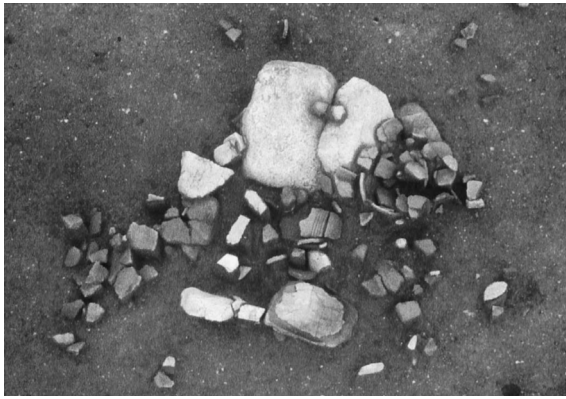


写真5 3号集積遺構



写真7 市来式土器



写真6 自然流路跡調査風景



写真8 鐘崎式土器

検出された。埋土は最も深いところで厚さ1.5mあり、流路内だけで約84,000点もの遺物が出土した。

縄文時代後期の土器は、南九州を代表する市来式土器や丸尾式土器を中心に中葉の土器が大量に出土した。鐘崎式・北久根式・納曽式・辛川式・西平式土器などのいわゆる磨消縄文系の土器が多量に出土したのが特徴である。南九州外の地域で流行した土器型式が多くみられるということで、交流の様子や土器型式の広がりを知る上で大変貴重な資料となっている。特に、水銀朱が塗彩された注口土器は、関東地方の影響を受け、近畿地方周辺で製作された可能性があり、広域交流の手がかりを与えてくれた。

土製品には土器片を再加工した円盤形土製加工品が1270点も出土した。1遺跡の出土量としては、本県で最高の出土量であった。ほかに十字形土製品や土器片錘も出土した。

石器には、石鏃・石匙・スクレイパー・石錐・打製石斧・磨製石斧・磨石・敲石・凹石・石皿・砥石・礫器・十字形石器・円盤形石器・軽石加工品等、多種多様なものがみられた。石鏃は、総数500点近く



写真9 北久根山式土器



写真10 辛川式、西平式土器



写真11 中世の溝状遺構

出土しており、それまで南九州の縄文時代後期には少ないとされていた石鏃のイメージを変えてくれた。磨製石斧には、蛤刃形のものや乳房状の大型製品のほか、小型のノミ状石斧も出土した。

弥生時代中期から古墳時代前半にかけての土器も少量ながら出土した。

古代のものには、掘立柱建物跡3棟と土坑2基、道跡、溝状遺構等が検出された。掘立柱建物跡は2間×3間が2棟、2間×2間が1棟検出された。道跡は、部分的に硬化面がみられるものの、幾層にもわたり重複しており、明瞭な時間設定が困難であったが、古代までさかのぼる可能性がある。

古代の遺物は、土師器・黒色土器・須恵器・中国系磁器・瀬戸焼・土馬等が出土した。

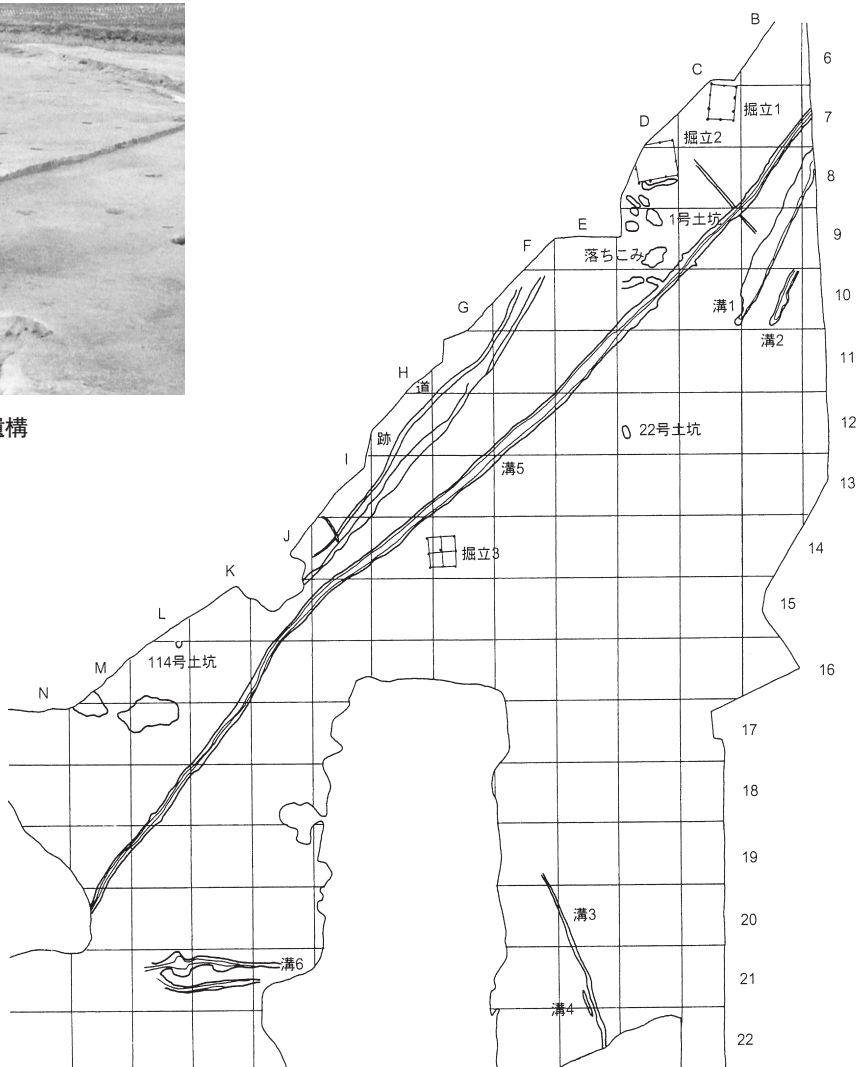
中世の遺構には、土坑や溝状遺構が検出された。溝状遺構は検出面での幅0.8～1.6m、底面の幅0.2～0.3m、深さ0.6～1.2mの断面「V」字溝で、200m以上に渡って検出された。灌漑用水路的な機能を果たしていたものと考えられる。

遺物は土師器・陶磁器・滑石製品・瓦器など国内外各地のものが出土した。

近世にも多くの溝状遺構がみられ、水田耕作の普及がうかがえる。

特徴

- ・縄文時代後期の(拠点的)集落の様相を知ること



第3図 古代～中世の遺構配置図

ができる。

- ・縄文時代後期の交流の様子を多種多様な遺物から探ることができる。

資料の所在

出土遺物は、鹿児島県立埋蔵文化財センターに保管され、一部は上野原縄文の森展示館に展示されている。

参考文献

鹿児島県立埋蔵文化財センター1997「干迫遺跡」『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書』(22)

鹿児島県立埋蔵文化財センター2003「中原遺跡 第3分冊付篇」『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書』(54)

(前迫亮一)